

『外部労働力』を掘り起し、農業分野の労働環境の改善(=農の働き方改革)を目的とする

- ・ 農業労働需給に関するニーズの把握
- ・ 域内他産業との連携により農業労働力を補完する仕組みの構築
- ・ 雇用者の意識改革による就労環境の整備 『選ばれる産地』に
- ・ 行政との連携による地域経済への貢献

事業実施主体構成員

富良野市営農活性化対策協議会
行政との連携
愛媛県JA西宇和・沖縄県JA沖縄
他地域との連携

北海道大学・東京農業大学
研究機関との連携
求人情報サイト運営会社 他
他産業との連携

実績値(目標値)

不足労働力の現状を踏まえて労働力を受け入れる担い手農家等の数
目標値：150戸 実績値：
労働環境に満足している雇用者の割合
目標値：9割以上 実績値：

令和2年度取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握

【北海道大学との連携】域内の農業労働力の実態調査を実施
臨時雇用者はシーズン通して10～20%の供給不足(特にメロンが大きい)
提言作成は3月、JAへの説明は7月 コロナの影響を踏まえた説明を受けた

イ 労働力の確保・育成

【JAにしようわ・おきなわ連携】農作業ヘルパーの還流(スキルの蓄積は人)
2020年度 『JAふらの JAにしようわ』のルート選択者は30名
2020年度 ママさん労働力：登録者71名、利用農家戸数11戸

【外国人材の確保・活用】
従来より技能実習制度を活用しJA選果施設で活用
2020年度より特定技能資格を活用予定...だった

ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化

【Dayworkの活用を検討も見送り】
2019年より鎌倉インダストリ社の労働力マッチングアプリ“Daywork”の導入を模索
2020年度は農作業ヘルパーが潤沢に確保できたことや、ヘルパー事業とのバッティングを懸念して導入を見送り

エ 農業の「働き方改革」への取組み

【農作業ヘルパーへのアンケート】
89名に対し34.8%の回答率
労働環境への満足度やリピートの可能性を調査

【ふらの未来農業EXPO2020の開催】
10/22～12/16 集客延べ265名
2/9に最終開催予定

オ 他産地・他産業との連携による労働力確保

【JAにしようわ・JAおきなわとの連携】 前述の通り
【富良野市内の他産業との連携】 コロナ禍の影響により地元トマムリゾートより2名を農作業ヘルパーとして受入

課題と令和3年度の取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握	
<p>【課題】</p> <p>定量的な把握が困難（需要側も供給側も） コロナ禍により供給過多が予見される ・ 2020年度はヘルパー予定人数は確保できた 労働力なら誰でもいいわけではない ・ 質の確認・担保</p>	<p>【次年度の取組み】</p> <p>コロナによる労働需給の見極め ・ 国の制度等の情報収集 常雇ニーズの把握 ・ 組合員意向調査等による常雇ニーズの把握</p>
イ 労働力の確保・育成	
<p>【課題】</p> <p>JAにしうわ・おきなわとの連携強化 ・ 3JA還流参加人数の増加 外国人材の確保・活用 ・ コロナによる入国制限等の見極め</p>	<p>【次年度の取組み】</p> <p>制度利用者の増加に向けた3JAとの連携強化 ・ 雇用条件の均質化と利点の強調・周知 特定技能資格者確保に向けた情報収集 ・ （株）シェアグリ等の動向確認</p>
ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化	
<p>【課題】</p> <p>Daywork（マッチングアプリ）導入の検討 ・ 大手（マイナビ）が同種サービスを展開 ・ ヘルパー事業との住み分けを検討する必要</p>	<p>【次年度の取組み】</p> <p>ヘルパー事業・特定技能資格者との住み分けの検討 ・ JAが責任を持ってないサービス導入の是非 ・ 「いいとこどり」利用の懸念</p>
エ 農業の「働き方改革」への取組み	
<p>【課題】</p> <p>ヘルパーアンケートの継続実施 ・ 使用者（農業者）へのフィードバックに不可欠 ・ コロナの影響について設問を設ける</p>	<p>【次年度の取組み】</p> <p>ヘルパー利用者（農業者）向け研修会の継続実施 ・ ヘルパーからの意見を伝え、働きやすい環境整備を推進 ・ リピーター獲得の意義を伝達</p>
オ 他産地・他産業との連携による労働力確保	
<p>【課題】</p> <p>JAにしうわ・おきなわとの連携は前述の通り R2年度に実施した他産業連携はコロナ次第 ・ 一部農業者は直接雇用していた事例も散見 ・ R3年度はコロナ禍の動向見定めが必要</p>	<p>【次年度の取組み】</p> <p>当初の想定では、夏場は農業、冬場は観光で人材を受け止めることを想定していたが... ・ 逆に農業側で受け入れたというのが実態 ・ 観光業が人材をつなぎとめられるかはコロナもしくは国の施策（GoTo等）次第 ・ インバウンド消失により冬期雇用先の再検討が必要</p>

アグリ
プラン

JA 広報誌 8月号掲載記事

農作業へルパー アンケート結果

農作業へルパーの労働環境の改善のための、アンケートを実施いたしました。
(株)アグリプラン

日頃より農作業へルパー事業運用につきましてご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。農作業へルパーに対し労働環境についてのアンケートを実施いたしました。組合員の皆様にもルパー事業の現状についてご理解を深めて頂きたく、昨年に引き続き、その結果についてご報告いたします。

なやみ・不満はより多様で複雑に

今年度は新型コロナウイルスの影響で他業種からの応募も多く、人員確保についてはおおむねの目標が立ちましましたが、少子化による労働力減少傾向に変わりはなく、農作業へルパー事業に関しても、同様に応募人数の低迷が予想されます。新たな募集が厳しい現状で、へルパーの満足度を上げリピーターを増やすことが急務となっております。

農作業へルパーも世代が変わり、いわゆる「いまだきの子」と呼ばれる世代がへルパーの中心となりつつあります。「打たれ弱い」者も多く、なかには何気なく掛けた一言の言葉尻を、勝手に不快に受け取ってしまうような者もいます。人間性も多様多種になり、これまで以上に繊細なケアが必要となっております。

昨年度からは組合員の皆様のご協力のもと、へルパーの給与、寮費について改善させていただいており、待遇面での大きな不満は解消されつつあるようにみられますが、リピート率を上げるために、これからも務めてまいります。へルパー事業に「これからも務めてまいります。へルパー事業を利用される組合員さんの立場としても」使いたい時代」になったと思いますが、何卒、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。



昼食に改善の余地あり、そのほかの問題も浮き彫りに

食事については、アンケート結果だけを見ると不満は解消されつつあるようにも見えますが、これまで不満の高かった朝食と夕食が選択制になったのみで、健康面で「強制」としての昼食の内容については、いまだ不満が残っているのが現状です。さまざまな年代が集まるへルパーにおいては、その嗜好もさまざまです。すべての人が納得するものは難しいと思いますが、委託業者に現状を伝え、協議しながら改善に努めます。

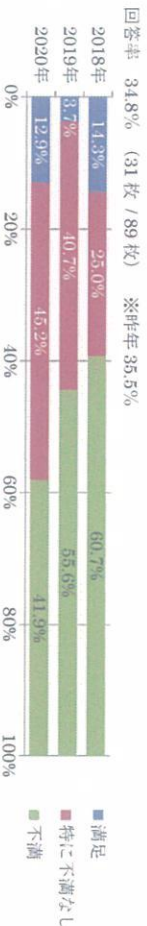
朝食・夕食を選択しないへルパーの食事ですが、火器を使用した調理については、防災、におい、ごみ、騒音の問題から認めています。しかしながら、レンジ等の調理器具を自室に持ち込んで自炊しているへルパーも現実にはいるようで、共用冷蔵庫の容量不足や臭いなどについても、今回のアンケートにより、新たな問題として浮かんできました。今後、食事の提供そのものの必要性や、自炊などについてなどしっかりと協議し真摯に対応してまいります。

新人の育成にも、ご理解ご協力をお願いいたします

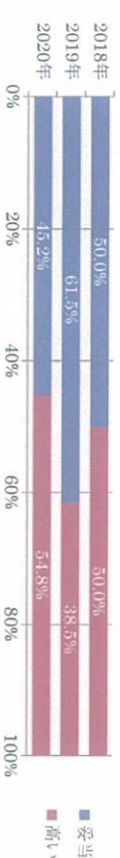
新人へルパーの中には「農業・作業の知識」の修得に苦労している人も多くいます。今期より簡単な基礎知識を教える資料を作成し、雇入れ時に示しておりますが、まだまだ現場で通用するレベルではございません。各農家さんによって作業方法も違うため、利用される組合員の皆さんに作業に関する指導をお願いしているのが現状です。また、近年自立つへルパーの意見として、「経験者(ピーター)だからって何でも出来るだろうと過度な期待をされる」というものも、「いまだき」をよく示す意見かと思えます。「経験者」でも困るという「いまだき」という要望も強いかと存じますが、都会からの農業未経験者を集めている事業ですので、温かく育てて頂く気持ちをもって接して頂ければ幸いです。

車輛の運転は厳禁です

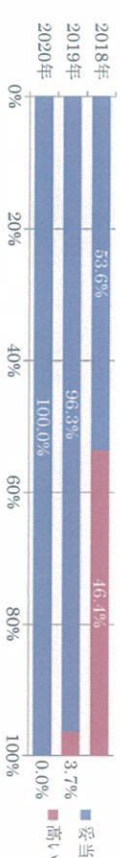
ヘルパーに対し車輛の運転をさせることは厳禁です。ヘルパーが運転し、万が一起こした事故については一切補償しないのはもとより、運転をしたヘルパー自身に法的責任が及ぶ可能性もあるので、絶対に運転をさせないようにお願いします。また、刈り払い機を使用した草刈り作業についてもアグリプラン社員のみとしておりますので、草刈り作業が必要な際は、アグリプラン(221624)へご連絡ください。



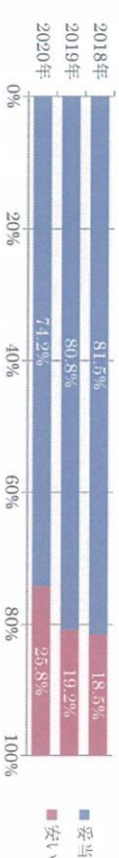
◆食費についてどう感じていますか？



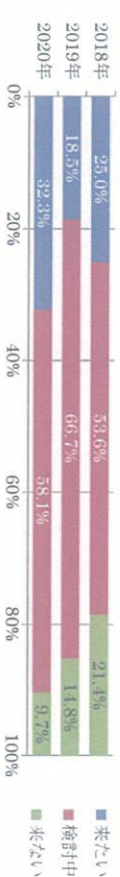
◆家賃についてどう思いますか？



◆時給単面についてどう思いますか？



◆来年も富良野にきたいですか？



「ヘルパー意見抜粋」

《食環境について》

- ★冷蔵庫がいっぱいで使えない。
↓ 弁当に不足しているのか精査し、購入を検討いたします。
- ★テレビ、音楽、トイレなどの生活音がうるさい。
↓ 物理的な防音対策にも限界があります。共同生活であることを改めて周知いたします。
- ★風呂やトイレの掃除が行き届いていない。
↓ 風呂場のカビが発生しているのは認識しております。現在、業者に清掃を依頼しております。

《食環境について》

- ★食食が揚げ物、加工肉、食品添加物と体に悪そうなものばかりなので、選択制にしてほしい。
- ★野菜を増やしてほしい。
- ★夏場の弁当の保管が心配
- ↓ 委託業者に実状を伝え改善をするようにお願いします。

《仕事先(組合員さん)について》

- ★はじめでも親切に教えて下さり、プライベートでも良くして頂いているのでありがたい。
- ★皆さんに良くして頂いています。
- ★リピーターならば何でも出来ると思われても困る。
- ★休憩所や簡易トイレが汚いところがある。
- ★トイレが用意されていないところがある。
- ★トイレに行きたいと言ったら嫌な顔をされた。
- ★飲み物を用意してくれない農家さんがいる。
- ★仕事は8時間を守って欲しい。早く始まるのに、終業が17時までというのはマナー違反。
- ★農家さん(特におかみさん)の口が軽い。

2020年7月17日（金）

▶ JAふらの理事会でのご報告

▶ 東山 寛

▶（北海道大学農学部）

コロナ後の農業

●「外国人頼み」の高級路線が最も大きな影響を受けた（インバウンド、輸出）

●高級路線を見直すかどうかは経営者の判断だが、少なくとも「高級路線」と「大衆路線」のバランスを見直すことが必要

●消費者の生活も苦しく、農業サイドもコストダウンに最大限の努力が必要

担い手・労働力対策の総合化

- ▶ ●親子二世代経営から親世代が抜ける
- ▶ ① 一時的な労働力の確保
- ▶ ➡ 新たな「給源」を見つける必要がある
- ▶ ※子育てママ、流動的アルバイト、農福連携
- ▶ ➡ ヘルパー制度+新たな仕組み(マッチングアプリ等)、地域的な「棲み分け」も必要
- ▶ ➡ いずれにしても「選ばれる」雇用先になる努力が必要で、これは外国人材にも当てはまる(目標とするお金が稼げる、日本語が上達する)

- ▶ ② ゆくゆくは普通の家族経営が「常雇」を入れる時代に